

第82期
中間報告書

平成23年4月1日～平成23年9月30日

Micro&Fine Technology

おかげさまで60周年



日本精線株式会社

【 経営理念 】

私たちは、お客様にとって価値のある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献します。

私たちは、情報を重視し、世界の変化にすばやく適応するため、技術・知識・行動の革新に挑戦し続けます。

私たちは、利益ある発展と、創造性豊かでいきいきとした企業風土の確立を目指します。

当社の経営方針について

当社はステンレス鋼線ならびに金属繊維(ナスロン)を主力製品とし、長年に亘り培ってきた技術力と新しい技術分野への挑戦により、お客様にとって価値ある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献することを経営の基本理念といたしております。

また、株主の皆様ならびにお取引先など、内外の関係先からの信頼と期待に応えるため、常に世の中の変化に迅速に対応できる柔軟な経営体制の構築を通じて、安定した収益基盤の維持・拡大を図るべく事業活動を展開してまいります。

日本精線は、ステンレス鋼線のトップメーカーとして、次世代素材、技術開発をリードしつづけています。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度の東日本大震災に被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

ここに、当社第82期中間期(第2四半期累計期間、平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

平成23年12月



代表取締役社長

近藤 龍夫

当中間期(第2四半期連結累計期間)におけるわが国経済は、3月に発生した東日本大震災によるサプライチェーン寸断やその後の夏季電力供給制限など経済活動に多くの制約を受けましたが、後半は一部産業分野の急激な立ち上がりにより回復傾向もみられました。しかしながら、欧州債務危機に端を発する世界経済の減速や超円高の進行など懸念材料は多く、依然として先行き不透明な状況が続いております。

ステンレス鋼線業界におきましても、震災後の自動車業界や家電業界の生産活動の低下などの影響により、出荷数量は前年同期に比べ10%強減少するなど厳しい状況となりました。

このような状況のもと、当社グループでは、(1)ROA10%以上、(2)海外売上高比率25%以上、(3)高機能製品・独自製品(ばね用材、耐熱ボルト用材、金属繊維など)の売上高比率60%以上などを経営目標とする『第11次中期計画』(最終年度平成24年3月期)の達成に向け、収益の一段の向上に鋭意取り組んでまいりました。この結果、当中間期の売上高は170億17百万円と前年同期比2.9%の増収となりました。

損益につきましては、高機能・独自製品の売上増やニッケル価格に起因する増益効果などにより

経常利益は19億4百万円(前年同期比4.4%増)、四半期純利益は11億92百万円(同32.7%増)となり、中間期としては経常利益・純利益とも過去最高益を更新いたしました。

なお、中間配当につきましては、既に公表しておりますとおり1株につき5円とさせていただきます。

次に部門別の概要についてご報告申し上げます。

ステンレス鋼線部門

震災の影響で需要が総じて減少したことにより、販売数量は減少いたしました。一方でデジタル機器向けの高機能製品の需要が高水準で推移したことや自動車産業が後半急回復したこと、加えてニッケル価格変動に伴う販売価格引き上げ効果により、売上高は増加しました。

また、海外現地法人であるTHAI SEISEN CO., LTD.につきましては、海外ステンレス鋼線メーカーとの競争は依然として厳しいものの、タイ国内販売の回復に加えて、アジア地域向けに売上が増加した結果、総じて堅調に推移しました。

これらの結果、ステンレス鋼線部門の売上高

は145億76百万円(前年同期比1.1%増)となりました。

金属繊維(ナスロン)部門

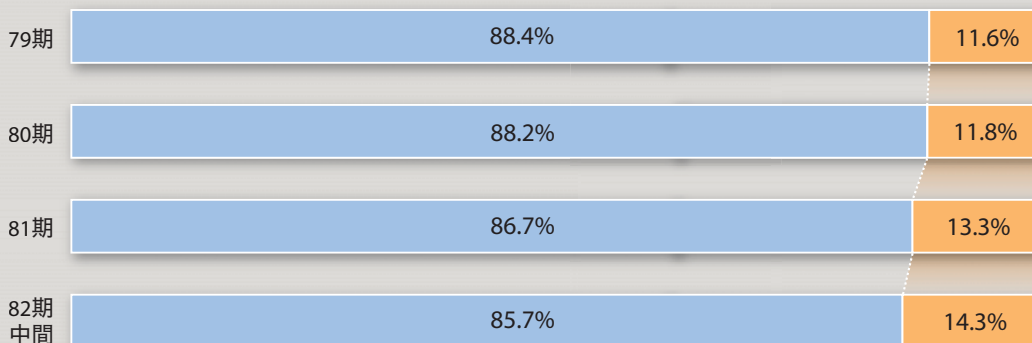
超精密ガスフィルター(ナスクリーン)は半導体業界の投資活動に調整が入ったことにより、後半には減少傾向となりましたが、主力のナスロンフィルターが高機能樹脂や化合繊維向けの旺盛な需要に支えられ堅調に推移したことにより、売上高は増加しました。

また、海外現地法人である耐素龍精密濾機(常熟)有限公司につきましては、中国化合繊維業界の旺盛な設備投資を背景に拡販強化の効果も現れはじめており、前年同期に比べて売上高は大幅に増加しました。

これらの結果、金属繊維部門の売上高は24億41百万円(前年同期比15.0%増)となりました。

部門別売上構成比(連結)

■ ステンレス鋼線 ■ 金属繊維(ナスロン)



(注) 部門区分につき、従来の「その他加工品」は第79期より「ステンレス鋼線」に含めて集計しております。

今後の見通しといたしましては、歴史的な円高の進行や冬季電力供給制限などの国内事情に加え、欧州債務危機やタイ洪水被害拡大による世界経済の減速など、引き続き先行きの不透明感が強まっております。

また、当社グループの主力商品であるステンレス鋼線は、高機能製品や独自製品の需要が比較的堅調に推移しているものの、一部汎用品は中国や韓国など海外勢のステンレス鋼線メーカーとの熾烈な価格競争下に晒されており、加えてニッケル価格の変動リスクなど厳しい環境下に置かれております。

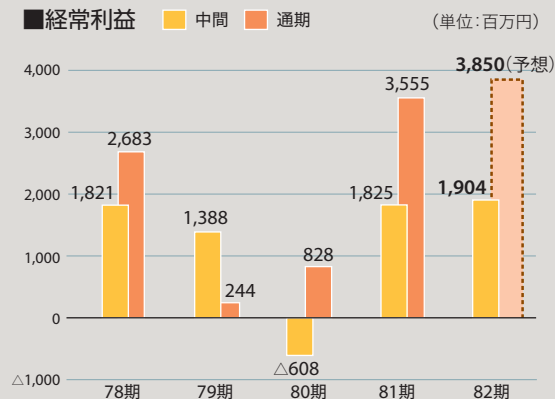
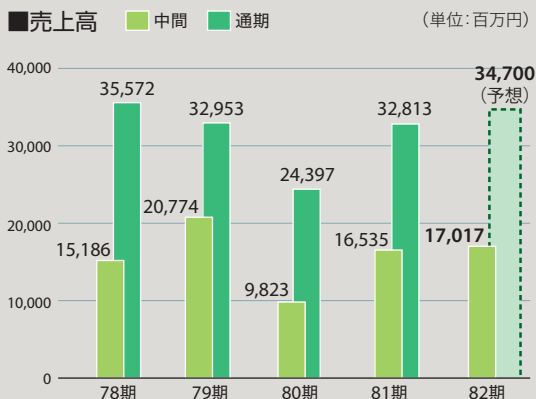
こうした中で、当社グループは斯かる経営環境に対応すべく、前述の『第11次中期計画』の課題

に鋭意取り組んでおります。

具体的には、ステンレス鋼線部門において、販売面では国内外市場に対し、ばね用材や耐熱ボルト用材をはじめとする高機能製品・独自製品の拡販に加え、海外子会社との連携強化による海外市場開拓推進など一層のグローバル展開を推進しております。一方、生産面では国内製造拠点の3工場から2工場への集約、海外2拠点の生産拡充など生産体制の効率化を一層推進するとともに、開発面では当社グループの保有する技術力・ノウハウに大同特殊鋼グループの技術力を結集することにより、新製品開発の強化や新規事業の確立などに引き続き取り組んでおります。

金属繊維部門では、中国・韓国の現地法人の活

業績の推移(連結)



用による高機能製品の海外市場への拡販、また、より高精度化する需要に応えるべく設備投資を継続して実施し、次世代製品を視野にいたした用途開発を推進しております。

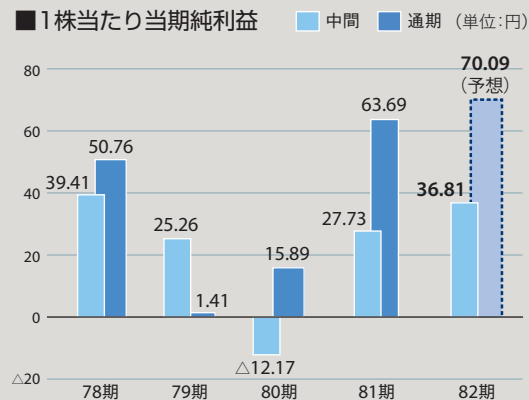
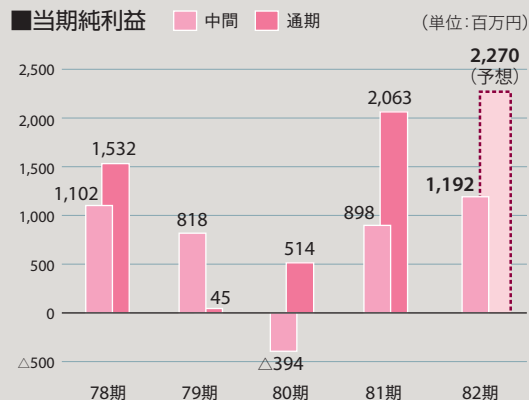
さらに、サファイアやシリコンウエハーなどの切断用ダイヤモンドソーワイヤー（商品名：さスカット）事業の立ち上げ・本格販売に加えて、高強度・高導電を有するばね用銅系合金線（商品名：エレメタル）や高圧水素環境下で使用可能なばね用ステンレス鋼線（商品名：ハイプレム）、高精度・低圧損フィルターの市場展開など環境ビジネス製品拡充にも鋭意取り組んでおります。

以上の諸施策を着実に実行し、収益の一段の向上を図るとともに、事業のグローバル化推進や

高度化・多様化する顧客ニーズへの対応などにより、『さらなる企業価値の向上』を目指してまいります。

なお、平成24年3月期の連結通期業績は、売上高347億円（前期比5.7%増）、経常利益38億50百万円（同8.3%増）、当期純利益22億70百万円（同10.0%増）を予想しており、利益はいずれも過去最高益を見込んでおります。

株主の皆様におかれましては、何卒、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



連結決算

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期末 (平成23年9月30日現在)	前第2四半期末 (平成22年9月30日現在)	前期末 (平成23年3月31日現在)
資産の部				
流動資産		19,119	17,942	20,227
現金及び預金		6,124	5,822	7,358
受取手形及び売掛金		6,785	6,621	6,763
商品及び製品		2,043	1,511	1,779
仕掛品		2,350	2,124	2,301
原材料及び貯蔵品		1,295	1,420	1,443
その他		519	441	580
固定資産		12,329	12,209	11,956
有形固定資産		9,826	9,526	9,378
建物及び構築物		2,988	3,043	2,948
機械装置及び運搬具		4,594	4,386	4,161
土地		1,731	1,809	1,743
リース資産		24	33	29
建設仮勘定		250	43	280
その他		238	209	214
無形固定資産		381	458	410
投資その他の資産		2,121	2,224	2,167
資産合計		31,448	30,151	32,183

*財務諸表は以下に基づき作成しております。

①当第2四半期累計期間(末)及び前第2四半期累計期間(末)は四半期連結財務諸表規則に基づき、それぞれ作成しております。

②記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

科目	期別	当第2四半期末 (平成23年9月30日現在)	前第2四半期末 (平成22年9月30日現在)	前期末 (平成23年3月31日現在)
負債の部				
流動負債		6,953	7,061	8,538
支払手形及び買掛金		4,301	4,284	4,521
短期借入金		647	781	821
未払法人税等		691	802	1,703
賞与引当金		550	420	590
役員賞与引当金		—	—	41
その他		761	773	859
固定負債		3,715	4,155	3,794
長期借入金		540	895	625
退職給付引当金		2,922	2,985	2,879
役員退職慰労引当金		92	91	107
資産除去債務		72	72	72
その他		88	111	111
負債合計		10,668	11,217	12,333

純資産の部				
株主資本		21,046	18,985	20,016
資本金		5,000	5,000	5,000
資本剰余金		5,446	5,446	5,446
利益剰余金		10,629	8,564	9,599
自己株式		△ 29	△ 25	△ 29
その他の包括利益累計額合計		△411	△244	△308
その他有価証券評価差額金		△ 45	28	1
繰延ヘッジ損益		△ 0	—	△ 0
土地再評価差額金		127	127	127
為替換算調整勘定		△493	△400	△437
少数株主持分		145	193	142
純資産合計		20,780	18,934	19,850
負債純資産合計		31,448	30,151	32,183

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	期別		
		当第2四半期(累計) (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	前期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
売上高		17,017	16,535	32,813
売上原価		13,777	13,346	26,443
売上総利益		3,240	3,188	6,370
販売費及び一般管理費		1,368	1,386	2,892
営業利益		1,871	1,802	3,477
営業外収益		59	55	144
営業外費用		26	32	67
経常利益		1,904	1,825	3,555
特別利益		—	—	471
特別損失		16	119	360
税金等調整前四半期純利益 又は税金等調整前当期純利益		1,888	1,705	3,665
法人税、住民税及び事業税		594	861	1,847
法人税等調整額		97	△ 44	△ 192
少数株主損益調整前四半期純利益 又は少数株主損益調整前当期純利益		1,196	888	2,011
少数株主利益又は少数株主損失(△)		4	△ 10	△ 51
四半期純利益又は当期純利益		1,192	898	2,063

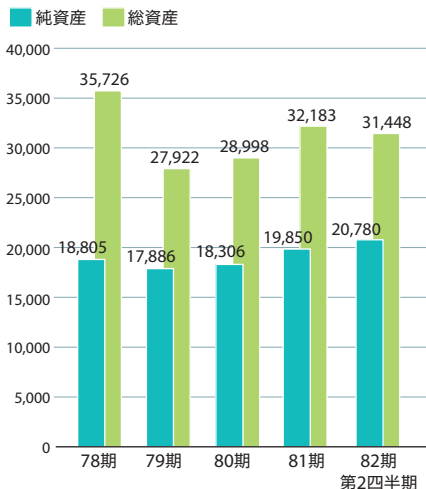
四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	期別		
		当第2四半期(累計) (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	前期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		199	1,648	3,933
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 986	△ 559	△ 932
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 412	△ 368	△ 731
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 33	2	△ 10
現金及び現金同等物の増減額		△ 1,233	721	2,258
現金及び現金同等物期首残高		7,399	5,141	5,141
現金及び現金同等物四半期末又は期末残高		6,165	5,863	7,399

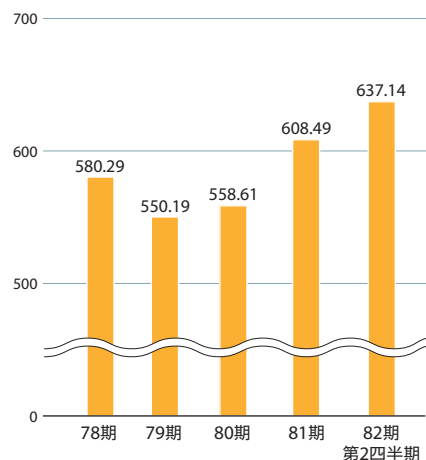
■ 総資産・純資産(連結)

(単位:百万円)



■ 1株当たり純資産(連結)

(単位:円)



会社の概況 (平成23年9月30日現在)

会社概要

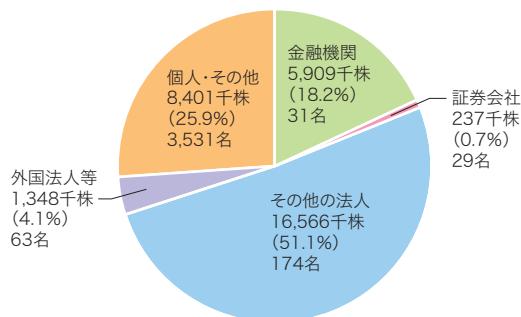
商号 日本精線株式会社
(英文名 NIPPON SEISEN CO., LTD.)
設立 昭和26年6月30日
資本金 50億円
従業員数 561名
ホームページ <http://www.n-seisen.co.jp/>
アドレス

当社グループの主な営業品目

ステンレス鋼線、ステンレス鋼直棒・異形線、高合金線、チタン線、金属繊維(ナスロン)及びその加工品、金属繊維焼結フィルター、半導体用超精密ガスフィルター、溶接棒、その他金属線

株式の状況

- 発行可能株式総数 82,800,000株
- 発行済株式の総数 32,461,468株
- 当第2四半期末株主数 3,828名
- 所有者別株式分布状況



当社グループの主要な事業所

■当社

本社 大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号(興銀ビル)
支店・営業所 大阪(大阪市中央区)・東京(東京都中央区)
名古屋(名古屋市中区)・九州(福岡市中央区)
工場 枚方(大阪府枚方市)・東大阪(大阪府東大阪市)
名古屋(名古屋港区)

■主な子会社

会社名	出資比率	所在地
THAI SEISEN CO., LTD. (*)	95%	タイ国サムットプラカーン
耐素龍精密濾機(常熟)有限公司(*)	70%	中国江蘇省常熟
大同不銹鋼(大連)有限公司	74%	中国遼寧省大連

(*)は連結対象子会社

■大株主

株主名	持株数	持株比率
大同特殊鋼株式会社	13,103 ^{千株}	40.45 [%]
日本冶金工業株式会社	1,688	5.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,636	5.05
株式会社みずほコーポレート銀行	1,086	3.35
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	833	2.57
前尾和男	541	1.67
特殊発條興業株式会社	532	1.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	406	1.25
株式会社池田泉州銀行	401	1.23
株式会社三菱東京UFJ銀行	338	1.04

(注)持株比率は自己株式(74,458株)を控除して計算しております。

役員

取締役及び監査役

(*印の取締役は執行役員を兼務しております)

代表取締役社長	近藤龍夫
*取締役	上田啓介
*取締役	衣川公尊
*取締役	岸木雅彦
*取締役	多賀正宏
*取締役	児玉勝人
取締役	立花一人
常勤監査役	稲垣多津夫
常勤監査役	住友清志
監査役	橋爪優真
監査役	橋之口真

執行役員

上席常務執行役員	上田啓介
常務執行役員	衣川公尊
常務執行役員	岸木雅彦
常務執行役員	宮城修司
常務執行役員	多賀正宏
常務執行役員	児玉勝人
常務執行役員	菊田真佐人
執行役員	中川準市
執行役員	新川博司
執行役員	川端泰司
執行役員	安部明夫

株主メモ

決算期日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 その他必要のあるときは、取締役会で決議し、 あらかじめ公告する一定の日
剰余金配当の基準日	期末 毎年3月31日 中間 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告掲載方法	日本経済新聞に掲載
証券コード	5659
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
	●電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
	●インターネット http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/

NIPPON SEISEN CO., LTD.

